

中南米を征服して 繁栄したスペイン

アメリカ大陸への到達と 史上初の世界周航

アラゴン王国とカスティリヤ王国の合併で誕生したスペインでは、グラナダを陥落させてレコンキスタ（イベリア半島の再征服）が完了した1492年、イサベル女王の後援により、イタリアのジェノヴァ出身のコロンブスがトスカネリの地球球体説を信じて西回りでのインド到達を目ざした。彼の艦隊は大西洋を横断し、サンサルバドル島に到達。その後アメリカゴヴエスブッチの探検によって、その地がヨーロッパ人には知られていない大陸であることがわかり、アメリカと命名された。

また、ポルトガル王と対立したマゼランはスペイン王に援助を求め、1519年に西回りでモルッカ諸島に到達すべく出港。マゼラン自身はフィリピンでの現地人との戦いで戦死したが、彼の部下が喜望峰を回って1522年にスペインに帰還し、史上初の世界周航を達成した（P84参照）。

スペインの中南米征服と ポトシ銀山の発見

コロンブスの探検以降、スペインは中南米への進出を本格化させた。1521年には、コルテスが先住民の知らなかった馬と鉄砲を使いアステカ王国を滅ぼし、次いで1533年には、ピサロがインカ帝国を征服し、植民地化した。

これらの地では、征服者に先住民の支配を委託するエンコミエンダ制がとられ、以後、先住民は大農場や鉱山で酷使されることとなった。苛酷な労働に加え、ヨーロッパからもたらされた天然痘などの伝染病の影響もあって先住民の人口は激減、これを補う労働力として、アフリカから大量の黒人奴隷が輸入された。

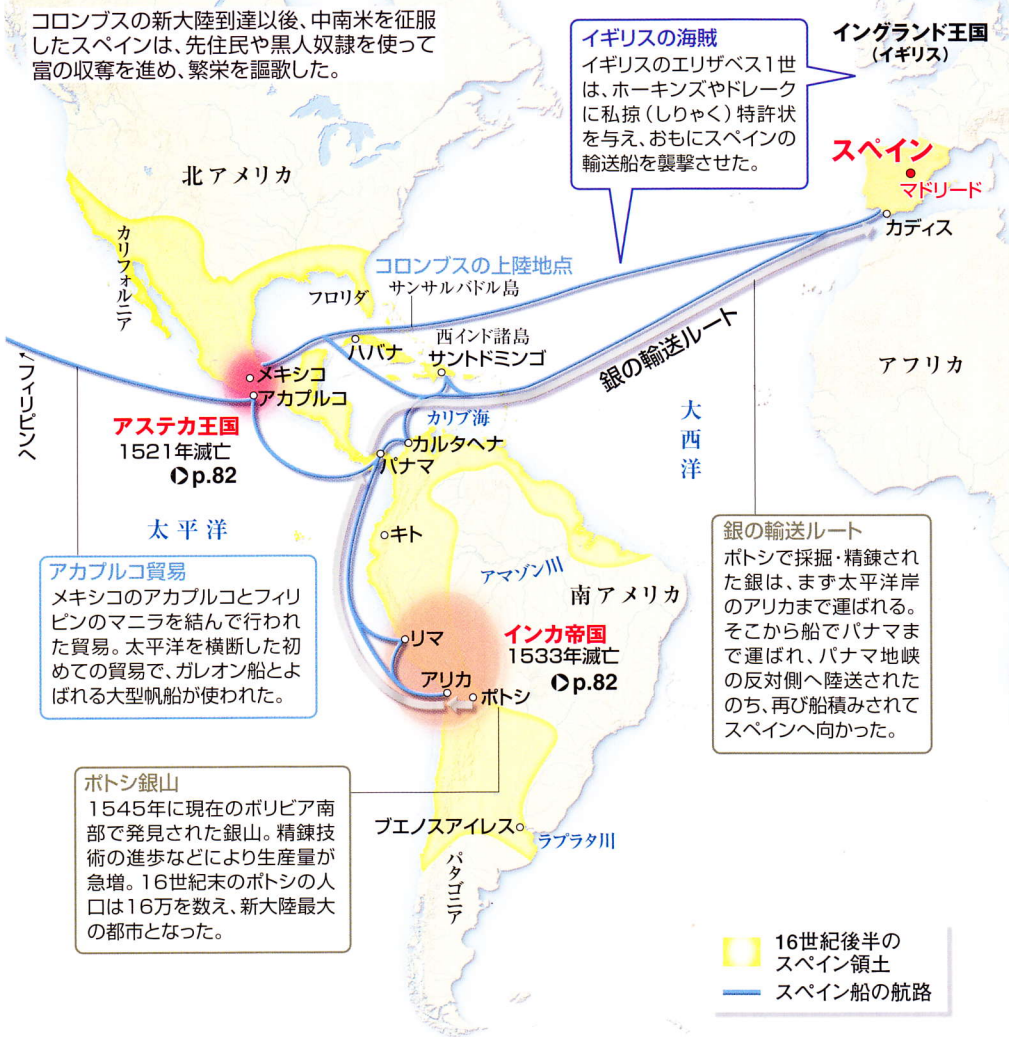
16世紀半ばにポトシ銀山が発見され、大量の銀が生産されるようになると、スペインには巨万の富がもたらされると同時に、価格革命とよばれる物価の高騰がヨーロッパに広がった。また、東方との直接交易路ができたことで、交易の中心が従来の地中海交易から大西洋交易やインド洋交易に移り、リスボンやアントワープといった大西洋沿岸の都市が国際商業の中心となる商業革命が起こった。

16世紀半ばにポトシ銀山が発見され、大量の銀が生産されるようになると、スペインには巨万の富がもたらされると同時に、価格革命とよばれる物価の高騰がヨーロッパに広がった。また、東方との直接交易路ができたことで、交易の中心が従来の地中海交易から大西洋交易やインド洋交易に移り、リスボンやアントワープといった大西洋沿岸の都市が国際商業の中心となる商業革命が起こった。



ポルトガルのインド航路開拓に刺激されたスペインは西方に進出。アメリカ大陸に到達し、先住民の国家を次々に滅ぼした。

16世紀のスペインとアメリカ大陸



価格革命

16世紀のヨーロッパで起きた急激なインフレ。アメリカ大陸での銀山の発見や精製法の改良などで、銀の生産量が飛躍的に増大し、ヨーロッパに流入して大量の銀貨が鋳造された。銀貨の流通が急激に増加したため、その価値が下落し、物価が騰貴した。マドリードでは1世紀半の間で物価は13倍になったといわれている。

Key Word